

探究通信 “All Different, All Wonderful”

～みんなちがって、みんないい～

【発行日】

令和4年9月5日

【発行者】

進路・探究部

～探究のサイクルを学ぶ～

5月16日～6月27日までの4回の探究の時間の中で、①問いの設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現までの一連の流れについて学び、実際にクラスで小グループに分かれて発表を行いました。今回は「リサイクル」という「問い」に対して、8つの学問分野の観点から個人で「問い」に関する情報収集を行い、その内容を班で共有し結論を導き出したのちに、個々で結論をパワーポイントにまとめて、他グループに発表しました。

【取り組んだテーマ(一例)】

- ・[理学] 生分解性プラスチックとリサイクルプラスチックではどちらが環境に良いか。
- ・[国際学] 国境を越えたリサイクルにはどのようなものがあり、そのメリット・デメリットは。

～生徒の振り返り①～

【本日の小探究プログラムの発表で学んだこと】

・自分の発表はかなり緊張したけれど自分なりに聞いている人に伝わるように工夫して発表することができた。情報収集した内容を発表する中で、より説得力をもたせるためにHPを提示したところ反応があったのでよかった。パワーポイントを作る時間を十分に確保することができず、見やすくなるような工夫をすることができなかった。他の人の発表は、問いの解釈を細かくしている人のものが聞きやすくして説得力もあると感じた。また、聞き手に回ること、発表するとき目線を上げて画面だけでなく聞いている人の方を見ることや、パワーポイントをわかりやすく作ることの重要性が分かった。

・自分の発表は、事前のイメージ通り上手く出来たと感じた。要点を強調して話したり、質疑応答ではまとめの部分を細かく砕いて説明したりすることが出来た。友達の発表を聞いて、様々な視点からリサイクルを考えられ、ものの見方の視野を広げられた。特に、歴史とリサイクルを重ねてリサイクルの在り方の変化の発表は興味を持てた。友達の発表から学んだことは、パワポが文字や情報量が多く、文字が小さい、黒一色だと、何が大事なのか、何を伝えたいのかが非常に分かりにくく、受け取るべき情報が受け取り切れていない感じがした。パワポを作成するときには、最低限の情報だけを書いて口で補足説明をしたり、色を付けて強調したり、大きな字で書いたりする工夫をする必要があると感じた。

・同じリサイクルという共通のお題なのに、問われている問題が変わるだけで、見方や使っている資料も違って、様々な要因がリサイクルという一つの課題を形成していることが分かった。また、発表も初めは三分とか長そうだなと思っていたら、やってみると以外にも短くてまとめるのに苦労した。



・出典が「https…」としか書かれていない人がいて、何のサイトの情報か分かりにくく、情報の信頼性を確かめにくかった。だから、「https…」だけでなく、「～省(庁)」や「～サイト」と書くと相手に情報の信頼性を分かりやすく示すことが出来ると感じた。



～生徒の振り返り②～

【小探究プログラム(全4回)を通しての振り返り】

- ・調べるだけでなく、周りと確認して信憑性を確かめたり、発表できるようにパワーポイントにまとめたりと、調べ学習とは全く違い、大変な面もあったが、これから実際にやる『探究』について理解できた気がする。たとえ興味の少ない分野で、はじめは乗り気じゃなかったとしても、今回調べたことで、新しい気づきがあったように思える。前向きにやれば何事も楽しめるはずだと思う。



- ・インターネットや書籍で調べても、問いへの結論が明確には記されておらず、どこから調べていくべきか難しかった。また、インターネットで調べる際には、出典元が信頼できるものかも判断しなければならず、調べていくのに時間がかかった。プレゼンでは、簡潔にわかりやすくまとめることが重要でそのためにも、自分が調べたことをかみ砕いて理解して、自分の言葉で伝えられるようにしたい。
- ・どの情報がより信頼性があるのかを記事の取捨選択のやり方をこの活動を通して知ることができた。農学分野というあまり興味の少ない分野ではあったが、様々な情報を集めていくうちにこんな物事もこの分野なのだと農学についての視野が広がった。興味ない分野も少し調べてみるのもありだと思った。



- ・調べていくうちに新たな疑問が次々と思い浮かび、それらを調べると少し違う方向性の内容も問の結論につながっていることがあった。そこから、問題を多角的な視点で見ることが思考する上で大切だということを学んだ。また、多角的な視点から得た点を関連づけて線で結ぶ技術も問題解決をする上で大切だと学んだ。そして多角的な視点を持つためには、やはり、他者と意見を交換したり、調べて発表するという機会が必要だと考えた。
- ・今回を通して調べたことから考察し、発表する方法を改めて学ぶことができた。他の班の人たちの発表を見て、一つのテーマでも様々な分野から見ると違った特徴、課題が見えてきて、自分が今まで見ていたものはそのものの一部でしかなかったのだと感じた。これからは自分の探究が始まるからまずしっかりテーマを定めて、それについて多くの立場から捉え自分なりに問いをたてていきたい。パワポの作り方もどうしたら見やすいのかなど色々見て考えたから次はもっと見やすくわかりやすいものを作り、見た人にわかってもらえるようにする。

- ・今回のプログラムを通して、問いから答えを自分なりに見つけ出す方法を学んだ。そして、それを発表する方法も学んだ。それはかなり自由で、そのため難しいが結果をまとめ、発表したときの高揚感は尋常ではなかった。この感覚を再び味わうため、今度は自分の好きなテーマで深く調べて行いたい。
- ・最初は「所詮調べ学習」と思っていたが、ネットで調べた内容を図書室や図書館で探し、その内容を班員と共有、考察、疑問点の交換などを通じて一つの問いを深掘りしていくと、「ただ内容をまとめて提出」だった中学の頃とは異なり、明確な答えが存在しない問いに「自分なりの答え」を見つける難しさ、班員との協力の重要性などに気づくことができた。

担当より

今回の小探究プログラムは、与えられた「問い」に対しての小探究でしたが、今後は「問い」を自分で見つけ、探究していくことになります。今回で得た成果と課題をつなげていきましょう！

成田